

笑顔のつどい分科会用記録シート

部屋	103
発表団体	北中校区もりあげ隊
担当委員	記録：松本 まとめ：松本 発表者：北中 田中先生、井上君、松葉君 参加者15人（5人ずつ3グループに分かれる。）
タイム テーブル	開始時刻：11時17分 団体発表：11時18分～11時38分 質疑応答：11時40分～12時05分 ①質問・感想をポストイットに書く。5分間 ②グループ内交流 7分間 ③全体交流 13分間 まとめ：12時5分～12時8分（3分間） ④閉会行事：12時05分～12時10分（5分間） ・アンケート記入 ・終わりの言葉
質疑内容	①質問 ・活動に参加する前と後で、ボランティア活動に対する気持ちは、変わりましたか。大人になっても続けたいですか。 ・これからどんなもちあげ隊にしていきたいか。 ・現在の活動以外で、生徒が発掘してきた活動はありますか。 ・活動に参加して、感じる事、考えたことは、ありますか。また、どんな活動に参加していきたいですか。 ・まず、参加しようと思ったきっかけと、なぜ、続けよう思うのか。 ・もりあげ隊の認知度を高めるために、どのようなアピール活動をしているか。 ②感想 ・地域の中の様々な活動に参加されている姿に感心した。 ・いつも寺子屋や防災訓練に参加してもらい、ありがたいです。地域の大人も中学生と一緒に活動ができて、嬉しく思う。中学生のお手本になれるよう地域の大人も頑張りたい。 ・自己有用感と自尊感情が高まるよい活動だと思う。地域とのつながりがQOLを上げる事例だと思う。 ・中学生の体格・体力を活かした活動だと思う。小中チームのもりあげ隊が、できるとつながりができて、意識と技の引き継ぎができると思う。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちが何かしたいと願いを実現する形がとられており、生徒にとって、地域で頑張っている姿がたくさん見られた。</li> <li>・自主性を高め、ボランティア精神を養うことは、将来における希望となる。最近、私自身の活動の中で、高齢化が進み、参加者が激減。昨日も解散の会議があり、前途多難な状態です。</li> </ul>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>①パーソナル形成に家庭・学校と違う地域の人とのつながり、活動が大きく影響する。地域との繋がり体験がある子どもとない子どもの差は、社会で他者と生きていく力に出てくる。</li> <li>②小学校で完結する地域とのつながりが中学生でも社会貢献するもりあげ隊の活動には、感動する。</li> <li>③地域とのつながりを体験させる北中学校の職員集団の仕掛け、システムが組織的に行われていることは、継続力につながる。</li> <li>④総合的な学習に止まらず、生徒会活動、部活動を活用した自主性を尊重した活動は、他校に見られない。子どもの自主性にゆだねた活動は、ボランティア精神に有効感を向上させる。</li> </ul>
分科会の持ち方について	<ul style="list-style-type: none"> <li>①グループ編成で、ポストイットに質問・感想を書いてもらいグループ内交流をしたのは、一人ひとり自分の考えをもち、自己主張できたので、参加意欲、自己存在感が高まった。</li> <li>②お菓子とお茶を準備してもらったが、「モグモグタイムをしましょう」と、呼びかけると、笑顔と笑いが増え、会の雰囲気が増え、質問や感想が出やすい環境になってよかった。 事務局のアイデアに感謝します。</li> <li>③発表者に2名の中学生が来てくれたので、中学生と参加者の対話が弾み、若者と地域の大人の心のキャッチボールが積極的にすすみ、意見の交流がよくできた。</li> <li>④15名の参加で、多くもなく、少なくもなく、丁度対話活動が近距離で、活発にできる規模で、よかった。 分科会の参加者の規模は、10名～20名程度が、よいのではないか。第7回の笑顔のつどいの分科会の持ち方の参考にしたい。 (改善意見) ・分科会の数を減らしたら、一分科会あたりの参加者が増えるのではないか。また、分科会で2つの実践発表をしたら、参加者が増えるのではないか。</li> </ul>

## 笑顔のつどい分科会用記録シート

部屋	302
発表団体	星の子文庫
担当委員	記録      橋爪 まとめ      橋爪
タイム テーブル	開始時刻 11:20 団体発表 11:23 質疑応答 11:38 まとめ 12:10
質疑内容	<p>グループに分かれて交流を予定していたが、人数が8名と少なかったため加藤さんを囲んだ座談会に変更した。</p> <p>◆支援が必要な方に支援が届かない。支援を要する家庭にどうやって支援を届けるか。 →参加者のそれぞれの立場、地域と学校の協働の視点から意見や考えていることを出し合った。</p> <p>◆星の子文庫を運営していく上での財源の工夫・確保をどうしているか？ →自治体・賛助会員・会員の年会費・フードバンク等</p>
まとめ	

## 笑顔のつどい分科会用記録シート

部屋	304
発表団体	鹿部子育てサロン
担当委員	司会・進行 秋山 実里 まとめ・記録 村山 美和子
タイムテーブル	開始時刻 11:00 団体発表 11:15 質疑応答 11:35 まとめ・終わり挨拶 11:40 自由遊び・アンケートの記入 11:45 ~ 12:10
質疑応答 (感想等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「サロンに参加したことがありますか。」8人の子どもたちの内4人の家庭が参加していました。</li> <li>・同じ年位の年の子を持つ家庭とのつながりが少ないです。気持ちをため込むことがあります。このようなサロンは、ありがたいです。(幼児父親)</li> <li>・サロンはゆっくりできるし、にぎやかで楽しい。先輩お母さんが、「いいとよ。いいとよ。」と言ってくると安心する。楽しい活動や良い友達作りができるよう指導をお願いしたいです。(鹿部子育てサロンに参加しておられる母親)</li> <li>・すごいと思う。これは、ボランティアでやっておられるのですね。広がってほしい。(年配の男性)</li> <li>・成長を見るのが楽しい。地域のおばあちゃんとして、楽しんで関わっています。子どもたちからのエネルギーをいただいています。(サロンの福祉会ボランティア仲間の方)</li> </ul>
まとめ	<p>今日の実践はいつもの活動の一部分で、全員集まって一緒に遊ぶ活動にさせていただきました。</p> <p>サロンでは、いつも季節感を大切にされております。今日は9月1日、秋らしい花や、虫を手作りされて遊びに生かしておられました。</p> <p>また、子どもたちは五感を使ったり、体全体を使ったりして遊び、それらが統合して成長につながるよう考えてありました。バランスよく子どもさんが成長されるために、とても大切な活動です。</p> <p>そして、子供たちの発達の段階に合った遊び道具や遊び方を工夫して提供されました。</p> <p>鹿部子育てサロンは0歳から5歳の子どもたちが通ってきますが、めまぐるしく成長する子どもたちのことをよくわかって準備しておられるからこそ、サロン活動が長く続いているのだと思います。</p> <p>鹿部子育てサロンは月に1回です。しかし、お子さんやお家の方がサロンの活動で気づいたことは、家庭に持ち帰り、きっと、家庭での遊びや生活につながっただろうと推察しています。</p> <p>このサロンに参加されたお母さんは、サロンでできたママ友や森さんたちと共通の体験をしておられるので、子どもさんの話の交流ができます。お母さん方はサロンでさりげなく打ち明け話をすることもあります。それで多くの不安が解消されていることや。今後の見通しを持つこともできていると聞いています。また、サロンは、森さんたちの温かい見守りがあり、親子で安心して2時間を過ごせる大切な居場所になっています。</p> <p>今日は全体会で、「子どもの生活満足度と地域の関わり」についての話がありました。自尊感情と友達の関係は深く、自宅外での存在感が少ない子どもさんは自尊感情が低い傾向があると話していました。子どもたちは自宅外でありのままの自分を受け入れてもらえる居場所を求めています。しかし、それを子どもが自分で見つけるためには、地域の人との出会いやふれあいの体験を小さなころから積み上げていくことが大切です。</p> <p>0歳の頃からいろんな人に出会い、声をかけてくれる人がたくさんいる子はその子を支えてくださる人が地域にたくさんいるということではないでしょうか。鹿部子育てサロンは、子どもたちの立場からすれば、0歳の子であっても「〇〇ちゃん」と呼んで可愛がってくださる地域の方が増える貴重な機会にもなっていると思います。</p>

笑顔のつどい分科会用記録シート

部屋	305
発表団体	東小放課後子ども広場（発表者:実行委員長 倉掛小竹）
担当委員	記録 國友 まとめ 平島
タイムテーブル	<p>11:10～11:13 (3分) グループに分かれて着席・発表者紹介(國友)</p> <p>11:13～11:28 (15分) 「放課後子ども広場」活動報告(倉掛)</p> <p>11:28～11:33 (5分) 質疑応答 (倉掛・サポーター、かいぎ中も随時)</p> <p>11:33～11:37 (4分) グループ内自己紹介 ★1人30秒:校区・名前・「自分の想い」</p> <p>11:37～11:55 (18分) グループ内 井戸端かいぎ (サポーター巡回参加)</p> <p>11:55～12:05 (10分) 1分発表&amp;まとめ ★代表者もしくはサポーター(倉掛・平島・国友)</p> <p>12:05～12:10 (5分) 閉会挨拶(平島)、アンケート記入</p>
質疑内容 (質問は特に無く、グループ討議での意見内容)  子どもの居場所づくりへの思い【	<p>&lt;家庭&gt;</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会話の時間を増やす工夫が必要!</li> <li>・子どもに話し掛け・話を聞く</li> <li>・一緒に過ごす時間を増やす</li> <li>・家庭の実態を見て・知り、子どもと関われる事を探して行動に移す</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人や環境(公・共)の責任・お任せにしない</li> <li>・家庭の・親の責任を考える</li> </ul> </div> <p>&lt;地域&gt;</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・もっと地域を知り、地域行事へ参加する・関心を持つ</li> <li>・無理なく出来る事を出来る限りやる</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域見守り体制強化と日常の声掛けを</li> <li>・幅広く・受け継がれる昔良き地域活動を(体操、昔遊び、自然:山・川遊び、農業体験など)</li> </ul> </div> <p>&lt;市&gt;</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・啓発運動・環境整備(体制づくり)</li> <li>・人・もの:確保への支援</li> <li>・地域の要望を聞いて実行を</li> <li>・場の確保(多目的運動場など)</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの居場所づくりの予算確保</li> <li>・地域要望への予算充当</li> <li>・行政の縦割りから横の連携強化</li> <li>・ボランティア活動も横への広がりを</li> </ul> </div>
まとめ	<p><b>【子どもの居場所づくりへの思い】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●国や市に対しては、地域の実情を良く把握して、居場所づくりの大切さを広く啓発し、その環境整備・体制づくり・場の確保にきちんと予算を計上して各部署横断的な支援をお願いしたい。</li> <li>●地域に対しては、まずは住人(子どもの保護者)が地域の様子・行事をもっと知る事から始め、関心を持って可能な限り参画する事で、地域とのつながりを強化する。そのうえで更なる見守りや日常の声掛け、遊び等の地域伝承に協力を求めたい。</li> <li>●一番核となる家族・家庭においては、子どもと接する時間・会話の時間を家々の実情に応じて工夫をして増やす努力から始める。子どもの話を聞く・引き出す事からである。決して他人や公共・環境のせいとせず、家族の・親の責任として主体的に子どもに関わる・話をする時間を家の内外で増やす事が大事である。</li> </ul>

## 笑顔のつどい分科会用記録シート

部屋	306
発表団体	おそらのしたで♪
担当委員	記録 角森・丸井 まとめ 角森・丸井
タイム テーブル	開始時刻 11:25～ PP(日頃の活動写真スライド)、活動内容の説明。その後テーブルに移動しそれぞれふせんに記入(印象に残ったこと)  団体発表・質疑応答・まとめ 11:35～なぜ気になったか  各自手持ちふせんを模造紙に貼りながら説明  同じものがあれば手持ちから出して貼る  12:05～ アンケート記入  12:10 終了 片付け～12:35
質疑内容	PPでの活動内容について、いいところやこれからの課題、おそらさんの要望など。  例：火を使いたいが、グリーンパークでは火を使える時期が決まっているため、自由にできない。  自然の中ですることにより、こどもも大人ものびのびでき、赤ちゃん間の交流が生まれたり、自然の物にも触れるので、五感が育つ。経験の幅が広がる など。
まとめ	◆地域のつながりの体験—おそらの下で 午前には提示された「QOL」自尊感情を高めるもの、つながり、体験地域の人がほめる場所(まずは親のつながりから) 「まつりに行きたい」、「キャンプがしたい」が生かされる活動  ◆おそらのしたで♪の特徴 ①わざわざ遊び場をつくらないといけない時代。ちょっとした仕掛けで遊びが広がる ②外あそびで互換を育てる 自然に触れる(火・水・土) ペイント・シャボン玉 公園に来た人がとびこみで参加できる ③親も子どもおだやか。PPで音はなかったが、たくさんの笑い声が聞こえた ④子育ての力がひろがる、大人も参加でき、子ども、親をほめることができる 自己肯定感を育てることができなかった青年たちの再構築の場になることができるのでは  ◆発表団体さんの感想 今回のワークショップで活動をより良く進めるための意見交換ができて良かった